



中山尚子「安らかな夜に抱かれて」2011年

中山尚子展 2002－2011

●会 期 ～2012年1月29日(日)

●会 場 美術工芸展示室

観覧料 無料

パッケージ、ブックカバーなどイラストレーターとして幅広く活躍する瑞浪市在住の中山尚子(1954年-)を紹介します。
当館の収蔵品を含め、この10年に制作された作品を展示します。

収蔵品展 眞板雅文展

●会 期 2月5日(日)～3月20日(祝)

●会 場 美術工芸展示室

観覧料 無料

美濃加茂彫刻シンポジウムに参加し、市内に屋外作品をのこした彫刻家・眞板雅文(1944-2009年)。
当館の収蔵品を含む作品を展覧します。



眞板雅文「時」1991年

SHOP NEWS

没後50年 津田左右吉展図録

A4判 72ページ 1000円

「津田の生い立ちと風土、時代」
「記紀批判の成立」「国民思想研究の展開」「東洋思想史研究」
「津田事件」「生活・交流・影響」
について紹介。
特別寄稿(6編)あり。

ミュージアムグッズの紹介



次の方々から貴重な資料をいただきました。

土器

山田 圭人さん(牧野)

洗濯機

佐合 正義さん(牧野)

ちゃぶ台 ほか

齊藤 基生さん(多治見市)

土器

日置 唯斗さん(牧野)

土ビナ

井戸 勝美さん(蜂屋町)

ゲタ ほか

伊藤 征太郎さん(太田本町)

ありがとうございます

みのかも文化の森 美濃加茂市民ミュージアム

〒505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1
TEL.0574-28-1110 FAX.0574-28-1104
http://www.forest.minokamo.gifu.jp/

■ご利用のご案内

開館時間 9:00～17:00

(ただし、展示以外の施設利用は22:00まで)

休館日 月曜日・第4火曜日(ただし、祝日の場合は開館し、直後の平日休館)、年末年始

■1月・2月・3月の休館日

12月26日～1月4日、10日、16日、23日、24日、30日
2月6日、13日、20日、27日、28日 3月5日、12日、19日、26日、27日

■交通

鉄 道/JR名古屋駅より美濃太田駅まで特急で約40分、駅北口より徒歩約17分
自 動 車/東海環状自動車道美濃加茂ICより約5分、駐車場174台

■あい愛バス

JR美濃太田駅北口より乗車、「文化の森」下車(約8分)

平 日/平成記念公園線(1日2～3往復)
土日祝日/文化の森公園線(1日10往復)

運 賃/一般 200円 小中学生 100円 未就学児無料
時 刻 表/詳しくは、美濃加茂市ホームページをご覧ください



MUSEUM NEWS

vol.64

みのかも文化の森

2012年 1/ 5発行



森

の観察日記 14

ツルアリドオシ (アカネ科)

林の内のやや湿った所に生える多年草。茎は地を這って分枝します。

6月頃になると茎の先に2つずつ白い花をつけ、秋の終わり頃にはその2つの花が合着し、写真のような赤い実になります。よく見てみると、実の頂に2つの花のあとが残っているのが分かります。



BUNKANOMORI EXHIBITION !

没後50年 津田左右吉展

●会 期 2011年12月17日(土)～2012年 3月4日(日)

《会期中の休館日》 2011年12月19日、26日～2012年1月4日、10日、16日、23日、24日、30日
2月6日、13日、20日、27日、28日

●会 場 企画展示室

●観覧料 一般・・・200円、20名以上の団体・・・100円
高校生以下及びかるちすとくらぶ会員・・・無料

ミュージアムトーク (学芸員による解説)

2011年12月17日(土)、2012年1月22日(日) / ①11:00～12:00 ②14:00～15:00

日本古代史、東洋思想史で多くの業績をのこした津田左右吉(1873-1961)が亡くなってから今年で50年になります。津田は美濃加茂市出身で、東京専門学校(現在の早稲田大学)に学び、のちにその教壇に立ちました。彼の研究は、歴史、思想、文学など幅広く、今なおそれぞれの分野で大きな位置を占めています。

本展では、美濃加茂市と早稲田大学が所蔵する関連資料を中心に、津田の生涯と研究成果についてあらためて検証し、そこからわたしたちが何を学びとるべきかを探っていきたくと考えます。これまで知られる機会の少なかった貴重な資料も多く、津田の学問と人間像について新たな側面に触れていただけるのではないのでしょうか。

美濃加茂市と早稲田大学は、津田だけでなく坪内逍遙の生誕地でもあることから、かねてより文化面での交流を続けてまいりました。本展もその交流事業の一環として開催するものです。



武蔵境の自宅にて(写真:個人蔵)

forum & event

●日時

●会場

●内容

ミュージアムフォーラム
「津田左右吉の人と学問」

1月29日(日)
13:30～15:30

緑のホール

東洋思想史研究を中心に、学問ばかりでなく、人間像もふまえて考察します。講師:土田健次郎氏(早稲田大学)
定員:120名 申し込み:当日13時より受付 参加料:無料

ミュージアムフォーラム
「津田左右吉の歴史教育論」

1月6日(金)
10:00～12:00

研修室

青年時代、中学校教員をしていた津田左右吉。歴史研究ばかりでなく、歴史教育についても晩年まで意見を述べていました。その内容を探ります。(教員向け) 講師:早川万年氏(岐阜大学)
定員:42名 申し込み:当日9時30分より受付 参加料:無料

ミュージアムイベント
「道草ー左右吉が暮らした里ー」

1月15日(日)
9:00～12:00

文化の森集合

バスで美濃加茂市～加茂郡川辺町を見学します。講師:津田左右吉博士顕彰会、展示ガイドボランティア、当館学芸員
定員:30名 申し込み期間:12月1日(木)～12月25日(日)
参加料:200円

ミュージアムイベント
「子どもの時のおもひで」を読む

12月18日(日)
2月5日(日)
2月26日(日)
各13:00～15:00

津田左右吉
博士記念館

津田左右吉の著作から、子ども時代や明治時代のこの地域の暮らしぶりなどを探ります。講師:津田左右吉博士顕彰会、当館学芸員
定員:30名 申し込み:当日12時30分より受付 参加料:無料



事前申し込みについて

住所、氏名、電話番号、希望講座名をご記入の上、はがきまたは直接ご来館の上、お申し込みください。

■電話、FAX、メールによる受け付けは行いません。

■応募者多数の場合は抽選となります。

イベント

minokamo city museum

●日時	●名称	●会場	●参加料	●定員	●内容
1/21 (土) 14:00～15:00	第113回 森の朗読会	緑のホール	無料	120名	作品：「恋文」 宇江佐 真理/作
2/18 (土) 14:00～15:00	第114回 森の朗読会	緑のホール	無料	120名	作品：「雪女」 「阪急電車」 小泉八雲/作 有川 浩/作
3/17 (土) 14:00～15:00	第115回 森の朗読会	緑のホール	無料	120名	作品：「死の授業」 「絵本 千の風になって」 新井 満/作 新井 満/作
～3/20 (祝)	収蔵品展 暮ラシカル道具展	民具展示館	—	—	昔の道具から、人々の知恵や生活の苦労などを 知ります。学校の学習活動とも連携し、体験しな がら学びます。

ていねいな暮らし講座

minokamo city museum

●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
～1/ 9 (祝)	門松立てとしめ飾り	生活体験館の年中行事。 門松を立て、臼や鍬にしめ 飾りをつけます。(自由観覧)	—	生活体験館	無料	—
2/11 (祝) 4/ 3 (火)	ひなかざり	生活体験館の年中行事。 土びなを飾り、野山の花を そなえます。(自由観覧)	—	生活体験館	無料	—
2/18 (土) 13:30～15:30	まゆびなづくり	色とりどりに染められたまゆ で、お雛さまを作ります。 持ち物:はさみ	事前申し込み 〔1/ 21 (土)～2/ 5 (日)〕	エントランス ホール	500円	20名

アートな1日講座

minokamo city museum

●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
1/22 (日) 13:00～16:00	絵馬をつくろう	和紙などをつかって絵馬をつ くりましょう。半立体にもでき ますよ。	当日12:30より受付	エントランス ホール	500円	20名
2/26 (日) 13:00～16:00	だるまに絵付け	張子のだるまに絵をつけましょ う。お子様から参加できます。		エントランス ホール	300円	20名
3/25 (日) 13:00～16:00	陶芸	手びねりの技法またはろくろ で簡単な器をつくります。 出来上がった作品は、後日お 渡しします(送付の場合有料) 持ち物:エプロン、タオル		陶芸室	1000円	20名

四季を食べる講座

minokamo city museum

ボランティア「伝承料理の会」と一緒に
この地域に伝わる料理を作ります。
料理にまつわる楽しいお話も聞けます。

会 場: 生活体験館
時 間: 10:00～13:00
定 員: 20名
参加料: 300円
持ち物: エプロン、三角巾

●開催日	●名称	●内容	●申し込み方法
2/ 7 (火)	手作りみそ	みそ汁離れが著しい現代…こ んな美味しいみそなら毎日飲 みたくなるかも?!	事前申し込み 〔1/ 9 (祝)～1/25 (水)〕
2/19 (日)	お寿司と茶わんむし	昔はお祝いの時じゃないと食 べられなかった茶わんむしをマ スターしましょう!	当日9:30より受付

ミュージアムレポート

没後50年 津田左右吉展について

当館では、2004年2月に「津田左右吉—その人と時代—」展として、津田の生涯や研究活動を紹介しました。以前から関連する調査や活動を続けてきたことは、ゆかりのある方や研究者など、多くの人々と出会い、関わりを深めていくことになりました。

そのようにしてできた「ご縁」を通じて館へ寄贈された資料には、「絵本小栗一代記」(写真1)などがあります。この書物は、津田による自叙伝ともいうべき「子どもの時のおもひで」(『津田左右吉全集』第24巻 岩波書店 所収)にも登場しており、幼少期の娯楽として津田が読みふけたものでした。また「火鉢」(写真2)は、自宅で研究に打ち込む晩年の津田が暖をとっていたもので、当時の写真と併せて見ると、その姿を想像させてくれるものです。

さて津田は、昭和35(1960)年の美濃加茂市名誉市民推挙、推戴式の開催に伴って、常子夫人や愛弟子の早稲田大学教授 栗田直躬と共に来市しています。当時の美濃加茂市長 渡辺栄一、地域で津田の顕彰に尽力した尾関公見をはじめとする関係者に迎えられ、太田小学校での式典、下米田小学校での講話、宿泊した望川楼などの各所を訪れた様子(写真3)は、人々に向けた津田の柔和な表情から、ふるさと美濃加茂とのあたたかな交流を示すものといえるでしょう。

そして津田は、”ヤマモトといふ村の低い山の上にあるヨナダの郷社のスハ神社のお祭りに二輦の山車があつて、(略)わたしは、ケンシンのほうがすぎであつたやうなきがする”のように、子ども時代を過ごした下米田の農村風景や暮らしぶりを「子どもの時のおもひで」に記しています。先日私たちは、全集第24巻を手にながら、下米田の登場する場所を巡ってみました(写真4:父 藤馬の墓地／東栃井)。参加した、文化の森展示ガイドボランティアのみなさんは、津田へ一歩近づけた印象を持ったようです。

これらのことは、「津田左右吉」や彼の「まなざし」を手がかりにすることで、私たちの暮らす地域を新たに見つめるきっかけとなるように感じられました。

*展示ガイドによる「ゆかりの地調査」は、常設展示室で活動の様子が報告されています。また、展覧会期間中の関連事業としても予定されています。



(写真4)



(写真1)



(写真2)



(写真3)